

第10節 肥料、飼料及び農薬関係の業務・病虫害発生予算

肥料、飼料及び農薬関係の業務では、肥料の品質の確保等に関する法律、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律及び農薬取締法に基づき、登録・届出及びこれらに関する立入検査業務等を実施した。

病虫害発生予算では、植物防疫法第23条（国の発生予算事業）及び同法第31条（都道府県の発生予算事業）に基づき、指定有害動植物及び重要病虫害を対象として発生予算を実施した。令和4（2022）年度の植物防疫法の改正に伴い、病虫害の侵入まん延防止の強化や、病虫害発生予算事業の対象となる指定有害動植物の種類数が増加した。

1 肥料、飼料及び農薬関連業務

(1) 肥料

令和元（2019）～3（2021）年の法律改正により、法律名の変更、肥料の原料管理制度の導入、肥料の配合に関する規制の見直し、肥料の表示基準の整備が行われ、品質と安全性の向上、信頼性の高い肥料の供給がされるようになった。令和6（2024）年度には、令和5（2023）年に新設された菌体りん酸肥料が本県で初めて登録された。

この10年で、肥料販売事業場数は増加傾向であり、また肥料の生産・出荷量においては、石灰質肥料が減少傾向、普通肥料の有機質肥料及び特殊肥料がやや増加傾向にあった。

令和6（2024）年度の県内の状況は、以下のとおり。

銘柄数は、普通肥料が361（りん酸質肥料2、有機質肥料14、複合肥料3、石灰質肥料328、指定配合肥料14）、特殊肥料は628であった。普通肥料生産業者数は71業者、特殊肥料生産業者数は460業者、県内の肥料生産業者はのべ531業者であった。肥料販売事業場数は1,961か所であった。

上記事業場における立入検査は、普通肥料生産22事業場と特殊肥料生産10事業場で行い、特殊肥料生産業者の届出を受理する前に事前調査を8事業場に対して実施した。

生産量は、普通肥料が170,477t（りん酸質肥料0t、有機質肥料4,932t、複合肥料199t、石灰質肥料165,189t、指定配合肥料157t）、特殊肥料は335,953tであった。

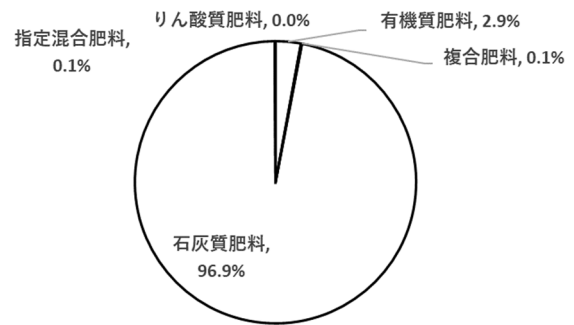


図1 県内における知事登録・届出の普通肥料の生産量（令和6年度）

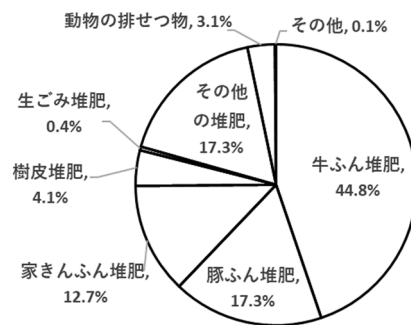


図2 県内における特殊肥料の生産量（令和6年度）

(2) 飼料

この10年では、SDGsの取組拡大により、食品メーカー等の異業種から飼料製造事業への参入が増加傾向であった。

令和6（2024）年度の県内の状況は、以下のとおり。

飼料関係事業場は、487か所（製造事業場75か所、製造事業場以外の施設（販売、倉庫、運送、輸入業者等）412か所）であった。

上記事業場における立入検査は、製造事業場20か所、製造事業場以外の施設13か所の計33か所で行った。

(3) 農薬

この10年、農薬販売事業場数はほぼ同じ水準で推移しているが、医薬品等販売（ドラッグストア等）が増加し、農業協同組合の事業場が統廃合により減少した。また、農業者の農薬不適正使用に係る指導件数は、ほぼ横ばいに推移した。

令和6（2024）年度の県内の状況は、以下のとおり。農薬販売事業場は1,005か所であった。

この事業場における立入検査は、農薬販売所187か所、

農薬使用者（ゴルフ場、造園業、農業者）20 か所で行った。

2 病虫害発生予察

(1) 病虫害発生予察情報等の提供

指定有害動植物（令和 6 年度 103 種類）及び重要病虫害（令和 6（2024）年度 50 種類）を対象として発生予察を行った。

「発生予報」を毎月 1 回提供したほか、「注意報」を 7 回、「特殊報」を 19 回発表した（平成 27（2015）～令和 6（2024）年度、表 1）。また、県独自の情報として「いちご病虫害情報」を毎月 1 回、「植物防疫ニュース」（速報）を不定期で発表した（令和 6（2024）年度 15 回）。これらの情報はホームページ及び電子メールを活用し、関係機関・団体・生産者等に対し、迅速に提供した。

(2) 指定有害動植物等発生予察効率化の推進

精度の高い予察情報の提供と適正な病虫害防除を推進するため、発生予察手法の高度化や薬剤感受性（抵抗性）検定（表 2）等各種の調査を実施した。

(3) 病虫害侵入調査

我が国未発生又は我が国の一部のみに発生している重要病虫害侵入を早期に発見するための調査を行った（令和 6（2024）年度 28 種）。

(4) 病虫害防除員の設置

植物防疫法第 33 条に基づき、病虫害防除所の業務に関する現地情報を得るため、病虫害防除員を委嘱し（令和 6（2024）年度 27 名）、フェロモントラップを活用した害虫発生状況調査等を実施した。

表 1 注意報・特殊報の発表一覧

種類	年度	号数	作物名 病虫害名
注意報	平成27	第 1 号	水稻 縹葉枯病
	平成27	第 1 号	トマト 灰色かび病
	平成28	第 1 号	水稻 縹葉枯病
	平成29	第 1 号	水稻 縹葉枯病
	令和2	第 1 号	果樹類 果樹カメムシ類
	令和6	第 1 号	果樹類 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）
特殊報	令和6	第 2 号	小麦、六条大麦、二条大麦 赤かび病
	平成27	第 1 号	イチゴ ミカンコナカイガラムシ
	平成28	第 1 号	ナシ ニホンナシハモグリダニ（仮称）
	平成28	第 2 号	メボウキ（バジル） ベと病
	平成29	第 1 号	リンドウ えそ斑紋病
	平成29	第 2 号	モモ、スモモ クビアカツヤカミキリ
	平成29	第 3 号	ユリ IYSV
	平成29	第 4 号	エゴマ モンオビヒメヨトウ
	平成30	第 1 号	ブドウ ブドウミタマバエ（仮称）
	平成30	第 2 号	トマト ミツユビナミハダニ
	平成30	第 3 号	イチゴ オウトウショウジョウバエ類
	平成30	第 4 号	トルコギキョウ 斑点病
	令和元	第 1 号	キウイフルーツ キクビスカシバ
	令和元	第 2 号	ねぎ ネギハモグリバエ（別系統）
	令和2	第 1 号	飼料用とうもろこし ツマジロクサヨトウ
	令和3	第 1 号	なす トビイロシワアリ
	令和3	第 2 号	うめ、もも ヨコバイ科の一種
	令和3	第 3 号	大豆 ミナミアオカメムシ
	令和5	第 1 号	にら フシダニ科の一種
	令和6	第 1 号	トマトキバガ

注）警報の発表なし

表 2 薬剤感受性検定一覧

年度	標題
平成27	イネいもち病菌のQoI剤に対する耐性菌発生状況調査
	トマト葉かび病菌の薬剤感受性
	ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定
	ミナミキイロアザミウマ雌成虫に対する主要薬剤の殺虫効果について
平成28	イネいもち病菌のQoI 剤に対する耐性菌発生状況調査
	キュウリべと病菌のQoI 剤に対する耐性菌発生状況調査
	ブドウべと病菌のQoI 剤に対する耐性菌発生状況調査
平成29	イネいもち病菌のQoI 剤に対する耐性菌発生状況調査 いちご、なしのナミハダニ雌成虫及び卵に対する主要薬剤の殺虫効果
平成30	トマト、いちごの灰色かび病の薬剤感受性検定結果1
	トマト、いちごの灰色かび病の薬剤感受性検定結果2
令和元	ブドウ晩腐病菌の薬剤感受性検定結果
	いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果
	いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果（続報）
令和2	イネいもち病菌のQoI剤に対する耐性菌発生状況調査結果
	果菜類に発生したタバココナジラミバイオタイプQ成虫の薬剤感受性検定結果
	イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定結果
令和3	ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果
	トマト葉かび病菌の薬剤感受性検定結果
	トマトすすかび病菌の薬剤感受性検定結果
令和4	リンゴ褐斑病菌の薬剤感受性検定結果
	いちごに発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果
	イネいもち病菌のQoI剤に対する耐性菌発生状況調査結果
令和5	ナシ炭疽病の薬剤感受性検定結果
	園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果
令和6	トマト灰色かび病菌に対する薬剤感受性検定結果
	イチゴ灰色かび病菌に対する薬剤感受性検定結果
	いちごに発生したワタアブラムシに対する主要薬剤の殺虫効果
	栃木県の水稲に発生したイネカメムシに対する薬剤の殺虫効果 令和 6（2024）年に異常発生したチャバネアオカメムシに対する主要薬剤の殺虫効果